

別府港湾・空港整備事務所通信

大分港の新たな一歩が始まる

-大在西地区複合一貫輸送ターミナル整備事業着工式を開催-

11月28日（土）に大分港大在西地区複合一貫輸送ターミナル整備事業の着工式を開催しました。



セレモニー風景（テープカット、くす玉開披）

大分港は、関東向けのRORO船便数は九州1位であり、2019年の貨物取扱量は過去最高を記録しました。これに伴いシャーシ置場の不足や点在が課題となっております。

本事業は、これらの課題の解決と、貨物需要やモーダルシフトの促進により、今後の新規航路就航や船舶の大型化に対応するため整備するものです。

式典では、**広瀬勝貞大分県知事**の式辞に始まり、**佐藤樹一郎大分市長**、**国会議員8名**より祝辞を頂き、約50名の列席者とともに、事業の開始を祝いました。

また、報道も新聞社3社、テレビ2社が駆けつけるなど本事業に対する関心の深さもうかがえました。



RORO船の写真

-Check!-

・RORO船とは？

RORO船とは、Roll On Roll Off Ship (ロールオンロールオフ船)の略で、貨物を積んだトラックやシャーシ(荷台)ごと輸送する船舶のことです。船の中にトレーラーが自走して乗り込むことが可能な構造となっており、クレーンを使わずに直接貨物の積み降ろしが出来る船のことです。このため、貨物の大量輸送と荷役作業の効率化が図られ、物流コストを軽減することができます。

事業箇所



工事着工状況(消波ブロックを撤去している状況)

九州地方整備局においては、「大在西部地区複合一貫輸送ターミナル整備事業」の供用に向けて、地元自治体と一体となって全力で取り組んで参ります。